

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2190500054
法人名	医療法人 社団恒仁会
事業所名	小規模多機能型居宅介護 プラタナス
訪問調査日	平成 20 年 3 月 18 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 19 日
評価機関名	旅人とたいようの会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	2190500054
法人名	医療法人社団 恒仁会
事業所名	小規模多機能型居宅介護 プラタナス
所在地	各務原市那加前洞新町4丁目49番地 (電話) 058 - 260 7383
評価機関名	旅人とたいようの会
所在地	大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成20年3月18日

【情報提供票より】(20年 2月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 3 月 15 日
職員数	23 人 常勤 9 人, 非常勤 14 人, 常勤換算 11.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

宿泊費(1泊)	1,500 円程度			
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	480 円	おやつ	円
その他日常生活において必要な費用	1日につき、およそ 教養娯楽費 100 円 ~ 円程度			

(4) 登録者の概要 (2月5日 現在)

登録人数	23 名	男性	8 名	女性	15 名	
要介護1		名	要介護2	3 名	名	
要介護3	10	名	要介護4	2 名	名	
要介護5	2	名	(申請中)	(2 名)	名	
要支援1	1	名	要支援2	3 名	名	
年齢	平均	79 歳	最低	63 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中クリニック そはら整形外科 東海中央病院 澤田病院 赤坂歯科
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体の医師の、住み慣れた在宅や地域で暮らし続けたい高齢者の想いを尊重し、通い・泊まり・訪問サービスの小規模多機能型居宅介護を立ち上げた。地域に密着した、24時間365日医療や訪問の全面バックアップの下で、一人ひとりの希望や意向に合わせ、その人らしく在宅を軸に自由に楽しい暮らしを支援している。前庭には建築前の樹木を残し、閑静な住宅地の環境を損ねない配慮をした事業所である。馴染みの地域住民を職員とし、一人ひとりの声に耳を傾け、見守り、生活経験から得意分野で利用者の力を発揮し、その人らしい楽しい暮らしを支援

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	小規模多機能型介護の初回評価
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	施設長・管理者・介護支援専門員・主任等全体会議で初心(理念・方針)に立ち返り話し合い自己評価をしている。外部評価の話し合いについても真摯に受け止め、より質の高い運営に又サービスの提供に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	3ヶ月に1度、包括支援センター担当者・自治会長・民生委員・福祉推進委員・家族代表・事業所等のメンバーで、家族代表の都合に合わせて開催している。事業所側から利用者数や暮らしの様子・ヒヤリハット等報告し、参加者の意見を求めながら活発に話し合っている。又災害時の避難訓練の協力もお願いしている。会議の議事録は市町村担当者に毎回直接届け、報告や相談助言を受けながら連携を図っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	利用者一人ひとりには連絡帳で様子や暮らしぶりを家族に報告している。玄関先に意見箱を設置し、苦情や意見があれば職員と即検討し、改善と再発防止に努め運営にも反映している。家族会がある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し回覧板で行事を知り参加している。地域住民は開設前から協力的で、玄関に手製の靴脱ぎ椅子を作ってもらったり、庭の水やりや手入れ、餅つきには臼や杵を借りたり、祭礼の子供神輿と一緒に作るなど自由な交流をしている。隣近所の馴染みの主婦を職員とし、利用者の見守りや心のケアを担っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念:住み慣れた地域で住民との交流を大切にし、健康管理を行いつつ個人の意思を尊重し柔軟性のあるサービス提供に努める。方針: 毎日穏やかな暮らしの支援 常に敬意を払った支援 人としての尊厳を守る支援 生活の継続がハピリに繋がる支援 傾聴し受容する支援等を事業所開設に当たり独自に作りあげ支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時や全体会議に管理者も職員も唱和し、理念や方針を確認しながら実践に取り組んでいる。名札の裏に理念と方針を明記して職員一人ひとりも日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し回覧板で行事を知り参加している。地域住民は開設前から協力的で、玄関の靴脱ぎ椅子の手作りや、庭の手入れ、餅つきには臼や杵を借りたり、祭礼の子供神輿もホールと一緒に作っている。近所の主婦を職員とし、利用者も馴染みの顔で安心でき、一人ひとりの見守りや心のケアを担当している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・介護支援専門員・主任等は全体会議で自己・外部評価の意義を確認し、更に初心に立ち返りながら話し合い自己評価をしている。初回である小規模多機能型居宅介護の評価に対しても職員で話し合っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度、包括支援センター・自治会長・民生委員・福祉推進委員・家族代表・事業所等のメンバーで夜間開催している。事業所側から利用者数や暮らしの様子・ヒヤリハット等報告している。又災害時の非難訓練の協力をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員派遣を受け入れている。市町村担当者には運営推進会議議事録を届け、相談や助言を受けながら共にサービス向上に取り組んでいる。事業所の設備修理の相談もしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりには連絡帳で様子や暮らしぶりを報告している。金銭管理は立替払いで毎月領収書を付けて清算している。事業所の通信は発行していないが、行事や介護方法・理事長(医師)の話等採り入れたものを計画している。		利用者一人ひとりの報告は連絡帳を活用しているが、行事の写真や理事長(医師)・職員のコメント等事業所の内容も家族に伝えられる通信の計画に期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会がある。運営推進会議には家族に順に参加を頼んでいる。玄関に意見箱を設置し、訪問時や電話でも尋ね、いつでも言いやすい雰囲気心がけている。直接聞いた意見や苦情は、職員と検討周知し再発防止や運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	就業規則に従い、馴染みの関係を大切に退職願いから2ヶ月の間で新職員と利用者に混乱なく引継げるようにしている。退職後も訪ねてきたり、時には応援を頼む関係である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は研修の必要性を認識し、外部研修や資格取得には出勤扱いにしている。外部研修で知りえた情報は、会議等で報告し共に学習しながら職員の質の向上に取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回開催の地域ケア会議(小規模多機能分科会・居宅分科会)に参加しネットワーク作りや情報交換をしている。現在スタッフ交流の相談をする等同業者とサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	無理に強要せず、自由な通いのお試しを利用しながら徐々に繋げている。泊まりも緊急以外は利用者本人が納得し又家族と一緒に泊まるなど慣れることから話し合い進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	おしぼりの作り方や庭の花の植え方、水のやり方等教えてもらう等、職員が利用者から学んだり、支え合う関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	常に「利用者の声に耳を傾け理解する」の理念を職員は意識し、利用者の声を聞き逃さず、利用前の状態や、かかりつけ医の意見も取り入れ特に意向把握の困難な利用者は日常生活の関わりから職員の気づきを申し送りノートに記載し、全職員が共有しながら一人ひとりの意向の把握に努め検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	新しい制度・小規模多機能型居宅介護(通い・泊まり・訪問)について利用者・家族・介護支援専門員と話し合いを重ね、希望や思いが叶い、今までの暮らしが継続できるよう全職員で検討し利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	定期を決めた見直しはせず、利用の変更や身体状況に合わせて主治医の意見も入れ、本来の小規模多機能型介護制度の特性を活かした柔軟な対応で見直し、計画作成している。在宅の家族から応援の要望にも訪問機能で対処している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「通い」をベースにししながら急な宿泊や訪問にも対応し支援している。受診の基本は家族だが福祉タクシーを利用し代行もしている。地域に集会所がないことから、事業所の地域交流スペースを集会所の代わりに提供し更に、地域住民の交流の場などとして相談している。		子供を含めた地域住民みんなで祭礼の神輿作りなど、自由な出入りが出来ているが、更に事業所の多機能性を活かし、地域交流スペースを集会場として開放し、利用者も一緒に交流できることに期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体のクリニックの医師(理事長)の患者が利用者となっている。本人も家族もかかりつけ医として医療の継続をしている。他の利用者にも主治医の変更は促さず、その主治医からも指示書を頂いている。歯科医の訪問も対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に終末期の方針を家族に説明している。主治医・家族・利用者・運営者で想いを把握し職員にも周知している。小規模多機能型在宅介護サービスを利用しながら最後は、在宅で家族や親族に看取られた経緯がある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの折に自尊心を傷つけない言葉かけを確認している。又地域の職員が多いので特に慣れに気をつけている。個人情報の書類は鍵を掛けた場所に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、5時起床の利用者の朝食、通いの利用者も泊まりの部屋で横になりラジオ・テレビ・読書をしたり、居間とを自由に行き来し、利用者のペースを大切に支援している。レクリエーションの参加も自由で強制せず、その人らしい暮らしがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は派遣職員(委託業者)が調理している。派遣職員の残菜調査や利用者と話し合いながら好みや希望を判断し楽しみな食事に繋げている。介助の職員は利用者と一緒に楽しい雰囲気を作り、片付け、台拭きなどを行っている。おやつや行事食は利用者と職員と一緒に相談しながら作っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一般浴・チェア浴(車椅子)・シャワー浴と身体状況に合わせた方法で入浴をしている。入浴を拒む利用者に対して言葉かけを工夫して、一人ひとりに合わせた支援をしている。希望の時間に添えない時間帯について検討課題としている。		利用者の希望に沿うよう全職員(近所の職員も含めて)で話し合い利用者にとって望ましい方法を期待する。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	在宅生活の経験から得意分野で一人ひとりの力を発揮し、お抹茶を点てたり、畑仕事をしたり、庭掃除、おしぼり置く等役割や楽しみにしている。気晴らしの支援として家族と一緒に一泊旅行を是非実行したい計画がある。しかし利用者の楽しみや気晴らしを引き出す職員体制には至っていない。		運営者は利用者や地域住民への健康と医療管理、又安心して暮らせる場所の充実を考えている。旅行に出かける等、利用者の希望に合わせた楽しみや気晴らしができるようにしたい。そのためには職員体制の充実が必要である。実現を期待したい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所内だけで過ごさず散歩・公園・ドライブにと積極的に出かけている。散歩道でみかんをもぎったり、犬と話したり、外気に触れ地域の人と話す等の支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者が鍵をかけない暮らしの大切さを認識し、日中の施錠はしていない。地域の理解・協力や地域職員の見守りが行き届き安心できる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対応マニュアルを作成し職員も学習している。防火・避難訓練は年1回の計画であるが実施していない。近日中に実施の計画があり運営推進会議にも話題にし協力をお願いしている。避難施設として近隣の施設と同意書を交わし、食品庫に備蓄や毛布等も準備している。		いつ発生するか知れない災害に利用者の安全確保は欠かせない。地域住民を巻き込んで早期に消防署の協力を得、訓練の実施を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量をチェック表に記録し職員が情報を共有しながら、栄養バランスや身体状況の変化に応じ主治医の指導をうけている。食事は業者に委託しているが、職員は利用者の好み・嚥下状態に合わせた形態を工夫し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前庭は建築前の樹木を残し、地域の環境を損なわない配慮がある。周りには季節の草花が咲き、居間には平行棒や利用者に人気のリハビリの器具がある。通いの利用者は思い思いの場所でくつろいだり泊まりの部屋でラジオを聴いたり、居間の好みのソファ等で過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「お泊りの持ち物について」の書面を家族に渡し、寝巻き・バスタオル・着替え・薬・ラジオ・電気毛布等使い慣れた物を自宅から持参している。在宅酸素持参者も泊まったり、家族と一緒に泊まることもある。できる限り利用ごとの部屋を変えず同じ部屋の利用で不安をなくしている。		